



鹿児島県
信用保証協会賞
決定

令和7年度 鹿児島県 ビジネスプランコンテスト

R7 Kagoshima Pref. Business Plan Contest

令和8年1月24日(土)、ライカ南国ホールにて令和7年度鹿児島県ビジネスプランコンテスト(主催:鹿児島県)の最終審査が行われました。

県内における起業に向けた機運醸成や事業化を支援することを目的としたコンテストで、当協会は2022年度から「かごしま起業応援団」に登録し、企業賞を提供しています。

今年度は最終審査に進んだ14名のうち、「命をつなぐ技術のシェアリングインフラ～医療の構造課題に挑む新しい医療支援モデル～」の事業拡大を目指す「株式会社CE-WORKS 代表取締役 中村隆志」氏に鹿児島県信用保証協会賞を授与しました。



中村隆志 氏のプロフィール

熊本県出身。中学生の頃、母親が透析を受けることになり、その母親から臨床工学技士(CE)という仕事の存在を聞いて将来の仕事として志す。

資格取得後、鹿児島の病院に就職したことを機に鹿児島に移住。臨床工学技士としてロボット手術や人工透析治療等に長年携わり、令和3年にフリーランスの臨床工学技士として起業。現在個人と法人併せて7施設の病院と契約し業務を行っている。

- 「臨床工学技士」…医療機器の専門家として、医師の指示の下で生命維持装置の操作や保守点検を行う国家資格を持つ医療技術者。医療チームの一員として患者さんの治療もサポートします。



当協会賞を受賞された中村隆志さん

Q.今回発表されたプランの概要を教えてください

日本には約8000施設の病院がありますが、その半数に医療機器を専門に扱う臨床工学技士が「不在」という現実があります。また、臨床工学技士の数も看護師128万人に対し、3万人しかいないというも構造的な課題です。

これまで20年病院で働いてきた中で、求人募集をかけても技士が集まらず、命を支えるはずの医療機器がきちんと管理されていない現実を知り、専門職がきちんと点検する株式会社CE-WORKSを立ち上げました。年々高度化する医療機器を誰が管理するかで命の安心や安全性は大きく変わります。

株式会社CE-WORKSは、医療機器の管理業務における臨床工学技士不足という問題を派遣のように人を増やすのではなく、専門職の価値を最大化して医療機器管理の責任と専門性を再設計する「仕組み」で解決する会社です。



勉強会の様子

Q.今後の事業展開や夢を教えてください

今後の事業展開としては、九州各県に支店を作ることを一つの目標にしています。

鹿児島は多くの離島があり、移動距離やコスト、人材確保などの医療課題を抱える最も難しい地域です。この土地で命の安心をつなぐ技術サービスを確立させることができれば、日本中どの地域でも通用すると考えています。さらに、このサービスは病院向けの事業に見えると思いますが、その本質は臨床工学技士がいないところでも医療機器が安全に使える「仕組みの運用」そのものなので、国が推進している在宅医療などにも横展開していければと思っています。

今後は構造的に今まで働き方が選べなかった子育て世代の女性技士さんや定年後のシニア臨床工学技士を雇用し、専門技術を提供することができる体制を作って、患者さんが安心して治療を受けられる環境づくりを進めていきたいと思っています。



【保証協会から一言】

医療の高度化を支える医療機器のスペシャリストである臨床工学技士は、そのほとんどが病院に所属していますが、多くの医療機関において人材が不足し、人の命を支える医療機器の適正な使用やメンテナンスができていない現状を知りました。

今回のプランでは、組織化することで臨床工学技士の働き方の幅も広がり、専門スタッフが不足する医療機関の人材不足の解決・効率化を目指せる点や、高い治療水準を維持するうえで需要が見込めるなど、実現性の高さが高評価でした。

「ビジネスプランコンテスト」とは？

鹿児島県内において、起業の予定、または新規ビジネスプランを有する方（高校生・大学生等を含む）を対象とし、「新規性及び成長性がある事業」または「地域課題の解決に資する事業」について実現可能性が高いビジネスプランを募集。最終審査でファイナリストに選出された事業については、賞金等の他、翌年度以降事業化について県補助金の支援が受けられます。

「かごしま起業応援団」について

官・民が連携した企業支援の取組を推進するため、コンテストの趣旨に賛同した企業が登録し、協力する取組です。

コンテストの周知や広報、ビジネスプランに関するアドバイス、資金調達方法の提案等、各企業の取組に応じて、応募者に様々な支援を行います。